

## ニッセンケン分室「思いつきラボ」No. 42 製品プリントのまとめになります・・・



6月になりました。旧暦では6月のことを水無月(みなづき)と呼ぶのですが梅雨に入る時期で雨も多いのになぜ水が無くなる月なのか不思議に思ってたところ テレビニュースで旧暦は5月が梅雨の時期にあたり6月は梅雨が明けて夏の炎天下で田んぼの水が無くなるからという解説が流れていました。諸説あり真意のところは判りかねますが納得のいく説明ではありました。しかし 最近の梅雨の雨は秋の台風のような豪雨をもたらすことも多く水無月という呼称を全く連想させないような季節感になってしまいました。あまり異常気象の報道はない方がありがたいのですが・・・。



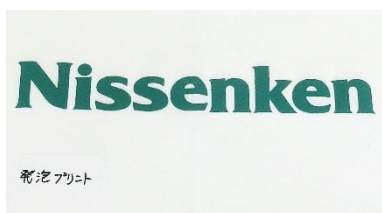
今回の思いつきラボは製品プリントの3回目となりますが まず人気投票の全ての結果を報告します。

プリントの種類	票数
箔プリント オーロラ	17
箔プリント ゴールド	4
箔プリント シルバー	2
発泡+箔プリント	10
再帰反射プリント カラータイプ	12
高再帰反射プリント	2
高再帰反射+蓄光プリント	3
ガラスビーズプリント	13
顔料プリント イエロー	2
顔料プリント ブルー	1
ラバープリント 二度刷り	1

プリントの種類	票数
ラバープリント ホワイトタイプ	1
ラバープリント マッドタイプ	3
半ラバーマッド+顔料プリント	2
発泡プリント	2
発泡プリント+シリコントップ	6
グリッタープリント	4
ラメプリント+シリコントップ	6
芳香プリント	7
フロッキープリント	4
蓄光プリント	7
アクアプリント	1

という結果になっています。総ポイント数が110ポイントで無投票が1点もありません。色の好みも影響はすると思いますが Nissenken という同じデザインで比較したにもかかわらず得票が分かれたというのは嗜好性(しこうせい)が分散しているからかも知れません。参加者が55人と少ないですが現代のファッションが多様化していることと同様の傾向となりました・・・と言いきれるほどのデータ数ではありませんが・・・。筆者としては面白い結果が得られたと思っております。ではまだ取り上げていないプリントについて説明します。

## それぞれのプリントの紹介です



発泡プリント



発泡プリント+シリコントップ

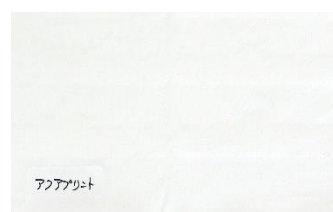
発泡プリントはプリントするインクに発泡剤を混ぜておいて プリントした後に熱を加えて膨らます技法です。膨らます高さは発泡剤の量で調整をしますが膨らました表面はかさついた感じになってしまいます。それも味なのですが光沢を加えたいときにはシリコントップの加工をして艶出しをします。仕上がり感是人それぞれの好みなので必ずシリコントップをするわけではありません。画像では判りにくいですがシリコントップの方が光沢があります。発泡プリントに使う溶剤はアクリル系かウレタン系のいずれかがほとんどですが ニット生地にプリントする場合は生地伸びの関係でウレタン系を使うことが多いです。



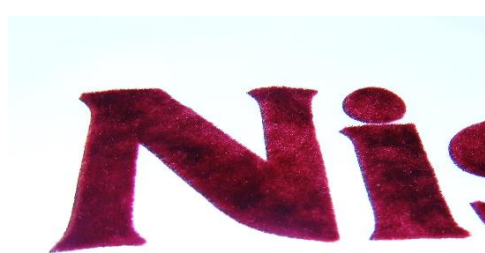
フロッキープリント



芳香プリント



アクアプリント



フロッキープリントは 1980 年前後に流行ったプリントで植毛加工とも呼ばれるように短くカットした繊維を 静電気を利用し樹脂に垂直に差し込んだシートを使う転写プリントです。インクではなく生地の上に繊維を乗せた様な加工になるので柔らかいイメージになります。繊維を立てているので発泡プリントと同様に立体的な仕上がりになります。当時裏毛素材のトレーナーやスエットスーツが流行った頃でもあり裏毛にフロッキープリントしたものが市場に多く出回りました。ちょっとだけ話が逸れますが“ト

レーナー”という商品名は当時人気のあった VAN(バン)が独自につけたもので国内だけで通用する呼称です。一般用語となるくらい大流行りした商品なのです。

芳香プリントはファンシープリントと呼ばれる変わり種プリントが流行った頃に出てきたプリントです。1990 年頃に話題になったのですが当時はまだ持続性がなく長い期間香りが続くことはなかったです。洗濯すると洗剤の匂いに負けてしまうものもあり話題ほどは市場に出回りませんでした。香りがするのは小さいカプセルビーズに香りを閉じ込めて服がこすれるとビーズが弾けて香りがするという仕組みになっています。今

ではこの技術も進化をとげていて香りがする洗剤や味が持続するガムなどに応用されています。カプセルの弾ける時間に差を持たせて何回洗濯しても匂いが続くものができるのです。



通常時 柄はうっすらと見える程度

アクアプリントは通常時は何も見えないのですが水に濡れると文字が出てくるというプリントです。筆者がこの開発に係わったのが 1983 年～ 1984 年くらいの頃にキッカケは撥水加工の撥水ムラの生地を見たことによります。撥水ムラを確認する時は生地をそのまま水に浸してから取り出して広げます。すると撥水の掛かっている部分と掛かってない部分とは水を吸った量の違いで濃淡が出ます。これがなんとなく柄に見えたのです。そこで意図的に撥水差を作って柄を出すという開発がスタートしました。

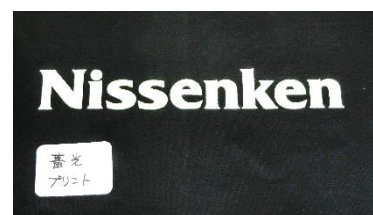
運良く傘を扱っている会社から開発依頼を受けたのですが 撥水差をつけるのは簡単な作業ですが 通常時(濡れていない時)に柄の気配をさせないということがなかなか出来ず かなりの時間を費やしてしまいました。納得できるものは出来たのですが本生産するには新しい設備を導入しないと量産できないことになりその段階で断念した経緯があります。同時期に他でも開発がされていてしばらくしてから市場に出るようになりました。傘ではなくトランクスタイプの水着が販売されるようになりました。当時ウィンドサーフィンが流行っていたころでおもしろ商品として話題になりましたが縫製するための裁断段階でどこにプリントが入っているか判らず作業できないという問題があとから発生しました。



グリッタープリント



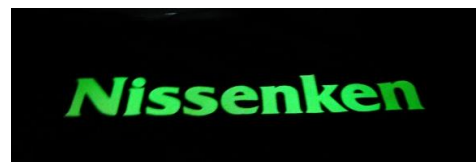
ラメプリント+シリコントップ



蓄光プリント

グリッタープリントとラメプリントは人によって定義が異なるので混乱しやすいですがここではグリッターが細かい形状のものをバインダーに混ぜ込んでいるもので ラメは箔を細かく刻んだものをプリントした上に撒き散らして圧着するという使い分けをしています。シルバーのグリッターをバインダーに混ぜ込んでプリントしたものと赤のインクの上にラメを散りばめラメが取れにくくするためにシリコントップの加工をしています。どちらも見た目はキラキラのプリントということになります。

最後に蓄光プリントですが太陽光や蛍光灯の光を当てておくと暗所で光るというプリントです。筆者が初めて蓄光プリントに関わったのが 1984 年ですので随分と前から使われている加工なのです



暗所に置くと光ります

が話題になるのが 4~5 年置きくらいで毎年売れるような定番にはならなかった商品です。初めて見る人にはインパクトは強いですが何度も見ていけば慣れてきてしまいあまり感激もしなくなってしまう。今回の投票でも思うほどは票が集まらなかったのは 筆者が普段から蓄光商品扱っていて職場のみんなが見慣れてしまったからかも知れません。

今回 22 種類の製品プリントを紹介しましたがこれだけで全てというわけではありませんが ほぼ主だったものは作ることができたと思っております。プリントにも個性があり用途によっては向き不向きもあります。製品プリントを考えるときには思いつきラボのコラムも参考にしてみてください。

原稿担当 : 竹中 直 (チヨク)

